

令和3年度第3回社会教育委員会議

「総合的な学習の時間における 学校・地域・大学の連携」



(ESD : Education for Sustainable Development)
持続可能な開発のための教育

開智国際大学教育学部
准教授 富田 俊幸

総合学習とは

- 教科指導の総合性を深め、教科学習の発展を志向する立場
- **子どもの経験や体験を重視する立場**
- **子どもの日常生活から生まれる問題解決**
- 知の総合化
- 現代社会において深めるために意義のあるテーマについて体系的・総合的な知を探究する。

- 「理解」 (Understanding) とは

知っていることを活用して、柔軟性を持って考え、行動する能力

(David Perkins)

問題について自分が理解していること、知っていることを、色々な action (行動) や performance (実践) で新しい方向に展開し、示すことができること。
(ハーバード教育学大学院プロジェクトチーム)

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の連携



コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の関係は？

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の連携

学校

協力依頼

- 学習支援
- 部活動指導
- 環境整備
- 学校行事等の支援

・学校の運営に資する活動を行う者（例：PTA代表、青少協代表等）
・学識経験者 ・その他教育委員会が適当と認める者

連携・協働

地域

地域学校協働本部（活動）

地域学校協働活動推進員

情報提供

協力依頼

支援活動

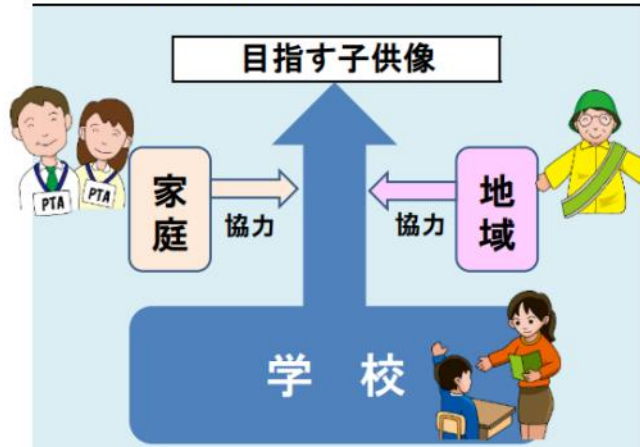
- 郷土学習
- 地域行事への参加
- 安全指導等
- 地域人材の育成

支援活動

学校・家庭・地域の協働とコミュニティ・スクールの取組

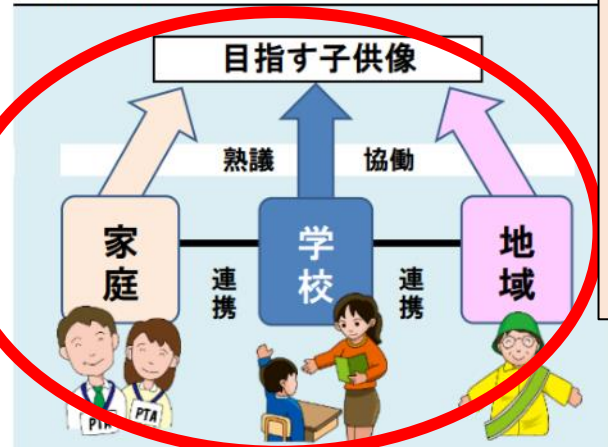
今まで

学校の教育に対して家庭・地域が支援



これから

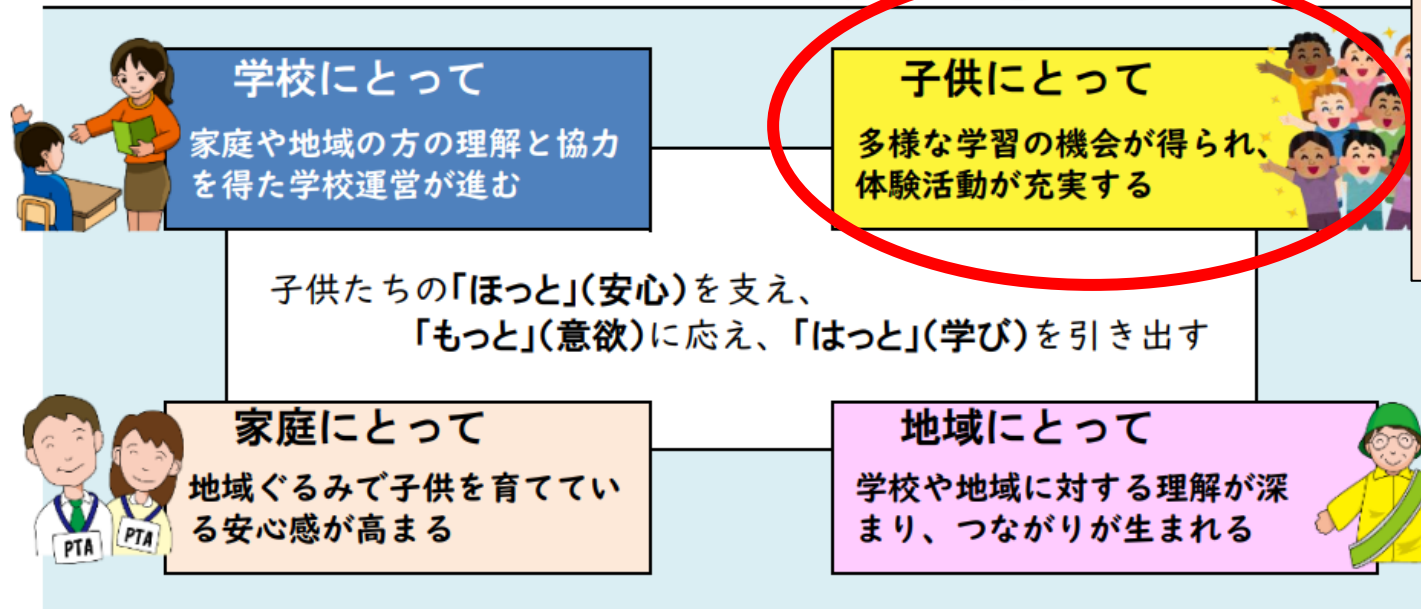
目指す子供像の実現に向けて学校・家庭・地域が協働



- 保護者や地域の方々が、学校と一緒に連携・協働しながら子供たちの学びと成長を支える。

期待される効果

コミュニティ・スクールの取組で広がる魅力



- 保護者や地域と学校が、相互にパートナーとして連携・協働して行う。

総合的な学習の時間 における家庭・地域 等の連携

・地域の教育資源

(商店街、安全マップ、職場体験・職業調べ)

・図書館や博物館・公民館

・大学

・休日等に学校外での授業を行う条件を明確化することで、**総合的な学習の時間を授業時数の4分の1程度まで、社会教育施設や社会教育関係団体で行うことが可能**

「総合的な学習の時間」における家庭・地域等と連携した 学校外学習の位置づけの明確化について

平成30年10月15日
学校における働き方改革特別部会
資料1

これまでの総合的な学習の時間

教師の直接的指導の下で「教室」で実施されることが多い。
(「職場体験」など、教師の間接的な指導の下で、教室外で行われることもある。)

学校・教室での学習

学校外の学習
(平日の通常授業時間内)

+

・地域調べ(商店街、街並み等)、職場体験等

これからの総合的な学習の時間

教師の直接的指導だけでなく、家庭や地域と連携しながら、
様々な場を通じて、児童生徒が主体的に探究を行う

学校・教室での学習

学校外の学習
(夏季休業期間や土日等含む)

+

・地域の教育資源を活用した実践的な学習活動
例) 地域調べ(商店街、街並み、安全マップ、外来生物等)
職場体験・職業調べ
図書館や博物館・公民館等を活用した調べ学習

○今次改訂では、児童生徒が実社会・実生活の中から主体的に課題を見付け、その解決に向けて多様な他者と協働しながら、情報を収集・分析し、解決策をまとめ・表現する探究的な活動を重視して、アクティブ・ラーニングを推進。

○総合的な学習の時間は、従来から、職場体験や地域調べ等、家庭や地域と連携しつつ展開されてきたが、こうした連携は限定的だった。

○夏季休業期間や土日等を含めた学校外における総合的な学習の時間の授業を行う条件を明確化することにより、児童生徒の多様な課題に応じた探究の機会の充実を図る。

【条件】指導計画上の位置づけ(目標、内容、学習活動、指導方法・体制、学習の評価)が明確であって、家庭・地域との連携の取組が充実している場合などには各学校等の判断により、**総合的な学習の時間の一定割合(1/4程度)**は、学校外での学習についても、授業として位置付けることができる。

○これにより、地域の教育資源の活用による学習の多様化が進むとともに、夏休み等を活用しつつ、**週当たりの授業時数を増やさずに、弾力的に授業を行うことができる。**

○このことは、学校と家庭・地域との連携の推進、学校教育と社会教育との相互の教育機能の充実による学校の働き方改革等にもつながる。

学校と地域がともに行う避難訓練

- 多くの学校が避難所に指定
- 災害要援護者を中心とした避難訓練
- 中学生が要援護者を避難搬送支援



事例紹介 4

防災教育、守られる側から守る側へ

東京都・板橋区



ESD的な防災教育の目的

防災教育における本来の目的は、生徒一人ひとりが自然災害を正しく理解し、自らの確な判断を下し、防災あるいは減災行動をとれるようになることです。しかしながら、多くの生徒たちが「自分たちは地域に守られる側」と受け身的な考えを持つ傾向にあります。そこで、ESD的な防災教育を実施することで、本来の目的を達成すると同時に、「自分たちは地域を守る側」という、さらに発展的かつ自発的な考え・行動に導くことを最終目的とします。

● 守るべき対象を広げる

ESD的な防災教育においても、第一に守るべきは、自分自身です。そのうえで、地域のお年寄りや障がいのある人など、地域に住む弱者を含めて、「守るべき対象」と考えられるようになることを目指します。

● 学校を避難場所として考える

災害時、多くの学校が避難場所に指定されますが、実際に避難場所として機能するかどうかは、あまり深く考えられていません。ESD的な防災教育では、現実的な課題解決学習として、学校側の備えについても考えます。

● 地域愛と自尊感情を育てる

災害時には、地域にいる多様な人たちとの連携が、大変重要となります。訓練を通して、生徒一人ひとりが、地域住民の一員としての自覚を持ち、地域を守るうえでの担い手になれることを実感できるようにします。

参考例 板橋区立高島第三中学校の取り組み

同校では、地域のNPO(ボランティア・市民活動学習推進センターいたばし)がコーディネーター役を務め、災害時に1人で避難することが困難な「災害時要援護者」を中心とした避難訓練を実施しました。車椅子の操作方法や、視覚障がい者をガイドヘルプする方法などを事前に学んだ生徒たちが、要援護者の避難搬送支援に取り組みました。

参加者：生徒(59名)、教員・PTA・消防署等(30名)、地域住民(171名 障がい者は内5名)、民生・児童委員(10名)、NPO関係者(25名)

地域と連携した体験学習

- 生活科の野菜栽培
- 社会科の商店街の見学・体験
- 地域の自然観察活動
- 稲作体験
- 地域の歴史や文化を知る
- 福祉活動



「体験学習」を「ESDの視点」で見直してみる

多摩市立連光寺小学校

同校では、これまでも地域に根ざした体験的な学習に取り組んできました。今年度、それらの活動を「ESDの視点」で見直すことで、活動にさまざまなつながりが生まれると共に、教員の側にもさまざまな意識の変化が見られました。



連光寺小学校の各学年のESD

- 1,2年生** 自然と関わる 「野菜を栽培する」「地域の農家と関わる」
- 3年生** 人と関わる 「商店街で仕事を体験する」「地域のお年寄りから連光寺の昔の話を聞く」
- 4年生** 自然を学ぶ 「多摩川での自然観察活動を通して、広い意味での生態系を考える」
- 5年生** 自然と人の共生を考える 「専門家に研究方法を学び、関心のあるテーマを追求する」「近隣で稲作体験をする」
- 6年生** 社会の一員として人と関わる 「地域の歴史や文化を調べ、達人に学ぶ」「世界の文化を知る」「福祉活動を体験する」

ESDの視点で見直したポイント

- 育みたい子どもの力を整理し(関わる力、課題を持つ力、課題を追求する力、表現する力、自分を見つめる力)、それぞれの力ごとにこれまでの活動を洗い直しました。その結果、活動に対する教員の目的意識が明確になりました。



SDGs/ESD：高齢者・障がい者福祉・子どもヘルパー

小学校

- ・ 高齢者との接し方を学ぶ、地域の方々との交流体験
- ・ 高齢者・障がい者を支え合う
- ・ **インスタントシニア体験、交流会、手話学習：福祉教育**
- ・ 小学校、社会福祉協議会、市民団体、NPO、地域の連携

平成27年度 かすみがうら市子どもヘルパー派遣事業

「子どもヘルパー派遣事業」は、平成23年度から実施している事業で、高齢者との接し方を学んだり、地域の方々と交流やさまざまな体験を通じて、思いやりの心を育み、地域全体で高齢者・障がい者を支えあう意識を高めることを目指しています。

1年目を下稲吉東小学校の希望者、2～4年目を下稲吉東小学校の5年生を対象に実施し、5年目となる平成27年度からは、下稲吉小学校の6年生を対象に様々な活動を行っていきます。

今回は、1学期の活動の様子をご紹介します。

任命書授与・学習会

かすみがうら市の福祉のことや高齢者との接し方を学びました。



インスタントシニア体験

年を重ねると体の動き・感覚はどうなるかな?を体験しました。



関節が曲がりにくくなると、歩くのは大変? 白内障になると、どんな見え方?



教室で交流会

地域の皆さんを教室に招いて交流会をしました。



3 すべての人に健康と福祉を



8 働きがいも経済成長も



出典:かすみがうら市福祉協議会Webサイト

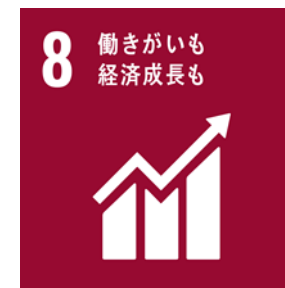
(http://kasumigauracity-shakyo.or.jp/wp/wp-content/uploads/file/kasumigaura_welfare_infomation44.pdf)

SDGs/ESD：生物多様性の保全・ワカサギの人工ふ化体験

5年生の総合的な学習の時間「環境」テーマ

- ・ 「ワカサギの人工ふ化体験」
- ・ 霞ヶ浦漁協や地域の公民館の協力
- ・ シュロに羽根で卵を付けて受精卵にする体験
- ・ 漁師の方からワカサギの資源保護について学ぶ
- ・ **受精卵を学校の水槽で観察、ふ化**

- ・ ワカサギ資源の保全
- ・ キャリア教育
- ・ 霞ヶ浦の水質浄化



教員に求められる資質能力と総合的な学習の時間の指導

- 「授業力」 カリキュラムの開発と実施
 - 「コミュニケーション力」
学年職員、管理職、外部人材とのコミュニケーション
 - 「交渉力」 管理職、外部人材との交渉
 - 「協働力」 学年職員、外部人材との協働
-
- 総合的な学習の時間における外部連携が重要

総合的な学習の時間と地域連携に関わる提案

・状況：

- ・コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の連携が進められている。教育活動や総合的な学習の時間における連携を進める環境がある。

・提案：

- ・モデル校として、一部の学校で総合的な学習の時間等における連携を進める。

・例：

- ・福祉・ボランティア学習
- ・防災・防犯学習
- ・郷土学習
- ・環境学習



ご清聴ありがとうございました

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



人がかわる
未来をかえる
学びあい
それが

ESD